

# 「指物」の美と可能性を追い求め 独自の世界を確立 ～木工作家 林 哲也 さん



神代櫛造線象嵌印箱 (第48回東日本伝統工芸展支部賞受賞作・08年)



楓拭漆線象嵌箱 (第56回日本伝統工芸展入選作・09年)



楓鳥眼空造箱 (第14回伝統工芸木竹展入選作・13年)



楓造銀線象嵌箱 (第54回東日本伝統工芸展入選作・14年)

研ぎ澄まされた形の美しさに、木工ならではの温かみが共存する。木工には指物、ろくろ、削物等があるが、林さんは釘といった接合具等を使わずに木と木を組み合わせる指物の、群馬県を代表する工芸家だ。

大工だった父親の背中を見て育ち、20歳で大工を志したが、次第に家具作りに興味を持つようになる。「地道にカンナを削ったりして最初から最後まで自分の手で作り上げる方が合っていると感じた」と、穏やかな笑顔で話す林さん。25歳で、林業が盛んな木曾谷にあって木工の世界では名高い長野県立上松技術専門学校へ。在学中、須田賢司氏（重要無形文化財保持者）の指物に触れ、その繊細さと力強さのバランスの良さに「今までの和家具のイメージが覆された」ほどの感銘を受け、指物に傾倒していった。

東京で2年ほど修行したのちに帰省、柏倉町に工房を構えた。注文家具を作っている生計を立てながら日本伝統工芸展など多くの展覧会に出品。入選を重ね、各所から高い評価を得ている。

出品作は毎回箱物で、形や色合いなどは様々。林さんの作品は指物の技術に加え、異種の素材を埋め込んで造る「象嵌」や「拭漆」といった技法の美しさが特長だ。例えば第56回日本伝統工芸展で入選した「楓拭漆線象嵌箱（写真上から2番目）」は、材料の楓を正方形に切り4つを重ね、それを木目が合うように組み合わせ、黒檀で象嵌して黒い線を入れ、漆で仕上げている。その細やかで美しい仕上がりには舌をまく。

1つの作品にはおよそ1ヶ月をかける。構想を練り、独学で学んだCADシステムを駆使して360度から見た設計図を書いていく。木は生もので木目の出方も変わるため、木目が完成のイメージに合わなければ作り直すこともしばしば。「実際に使いやすいものであることに加え、見ても楽しくなるものを作るのが作家の力量」と林さんは話す。

「結局は自分がいいと思うものしか作れない。作りたいもののアイデアはどんどん膨らむが、それにかなう技術も磨いていきながら、指物の可能性を広げていきたい」。多くの人を感動させる箱物を作るため、林さんの挑戦は続いていく。



## ＜プロフィール＞ 林 哲也（はやしてつや）木工作家

1971年、前橋市（旧大胡町）生まれ。日本工芸会正会員。前橋市在住。91年大工に従事。家具職人を志し、25歳で長野県立上松技術専門学校木工科に入学。在学中に須田賢司氏の作品に惹かれ、指物職人を目指す。卒業後の97年から東京で指物に従事する。2001年、前橋（旧宮城村）に木工房「双樹」を設立、本格的に作家活動に入る。07年、第47回伝統工芸新作展初入選。08年、第48回東日本伝統工芸展東日本支部賞受賞。同年、第55回日本伝統工芸展初入選。09年、第12回伝統工芸木竹展初入選。第56回日本伝統工芸展入選など、数々の実績を重ねている。

■高崎高島屋にて個展を開催  
来年1月末より、高崎高島屋にて個展を開催します。是非とも、お出かけ下さい。

### ＜個展概要＞

●会期 2017年1月31日（火）

～2月7日（火）

●会場 高崎高島屋

5階アートギャラリー  
（高崎市旭町45）

### ■「前橋の美術2017」

「多様な美との対話」に林さんの作品が展示されます

前橋の美術2017 THE ART of MAEBASHI 2017  
アート前橋で、来年2月に行われる展覧会に林さんの作品、数点が展示されます。



本展覧会は、前橋市に縁があり、その精力的な制作・活動により国内外から高い評価を受けているアーティスト、約50名が集結し、作品と鑑賞者が出会い多様な対話がなされるとともに、未来を担う若者や子どもたちの感性がめぶくきっかけになることを趣旨とする企画展です。是非とも、お出かけ下さい。

### ＜展覧会概要＞

●名称 「前橋の美術2017」

「多様な美との対話」

2107年2月3日（金）

～2月26日（日）

●会場 アーツ前橋

（前橋市千代田町

5-1-16）

●観覧料 無料

●主催 前橋の美術実行委員会